

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

低圧三相かご形誘導電動機

東芝ギヤモートル

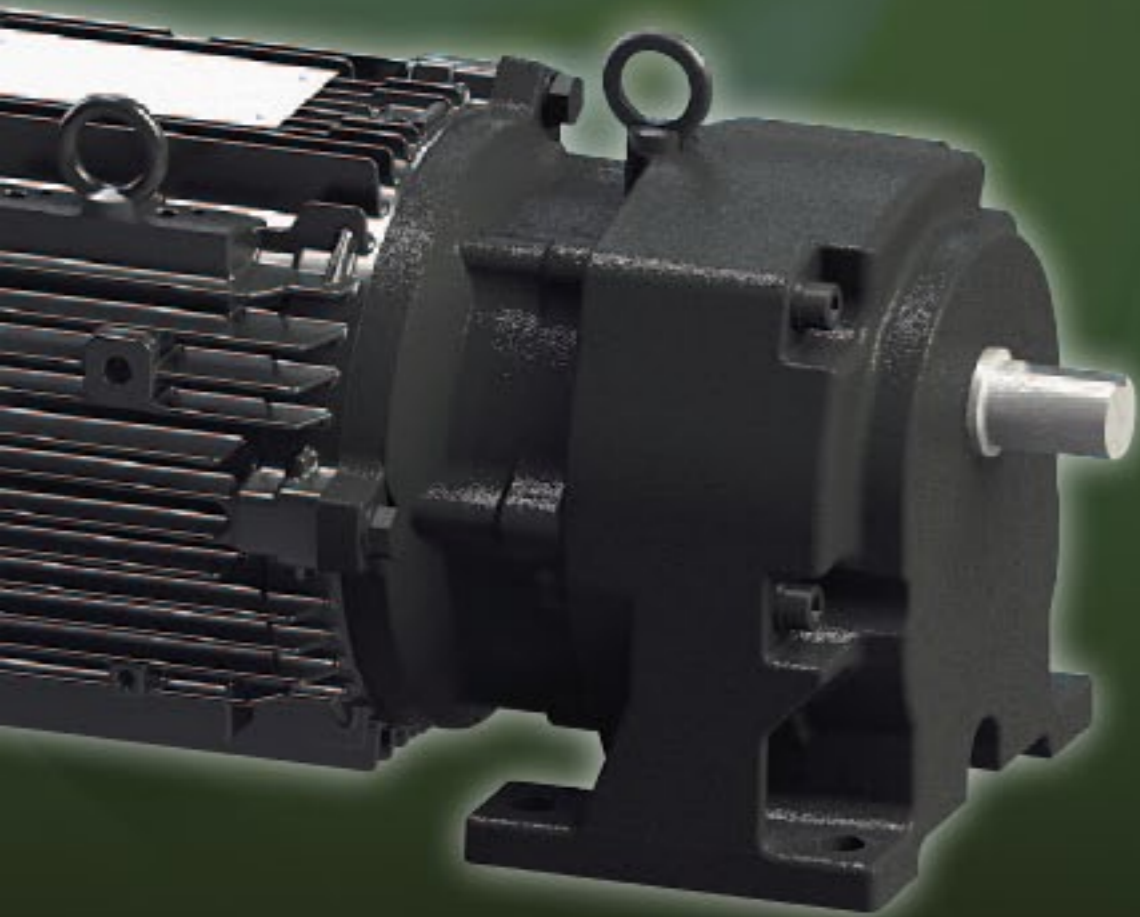


出力0.4kW:標準効率
出力0.75kW以上:トップランナー規制対応

TOSHIBA Gear-motor

PG series

SF series



一般産業用途向け
TOSHIBA Gear-motor
PG series

機種バリエーション

シリーズ	極数	出力(kW)													
		0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	22	30	37	45	55
PG series	4極	[Green bar indicating power range from 0.4 to 11 kW]													
適用	一般産業														
潤滑	グリース														
SF series	4極					[Orange bar indicating power range from 3.7 to 55 kW]									
適用	中負荷用					[Orange bar indicating power range from 3.7 to 55 kW]									
潤滑	オイル					[Orange bar indicating power range from 3.7 to 55 kW]									

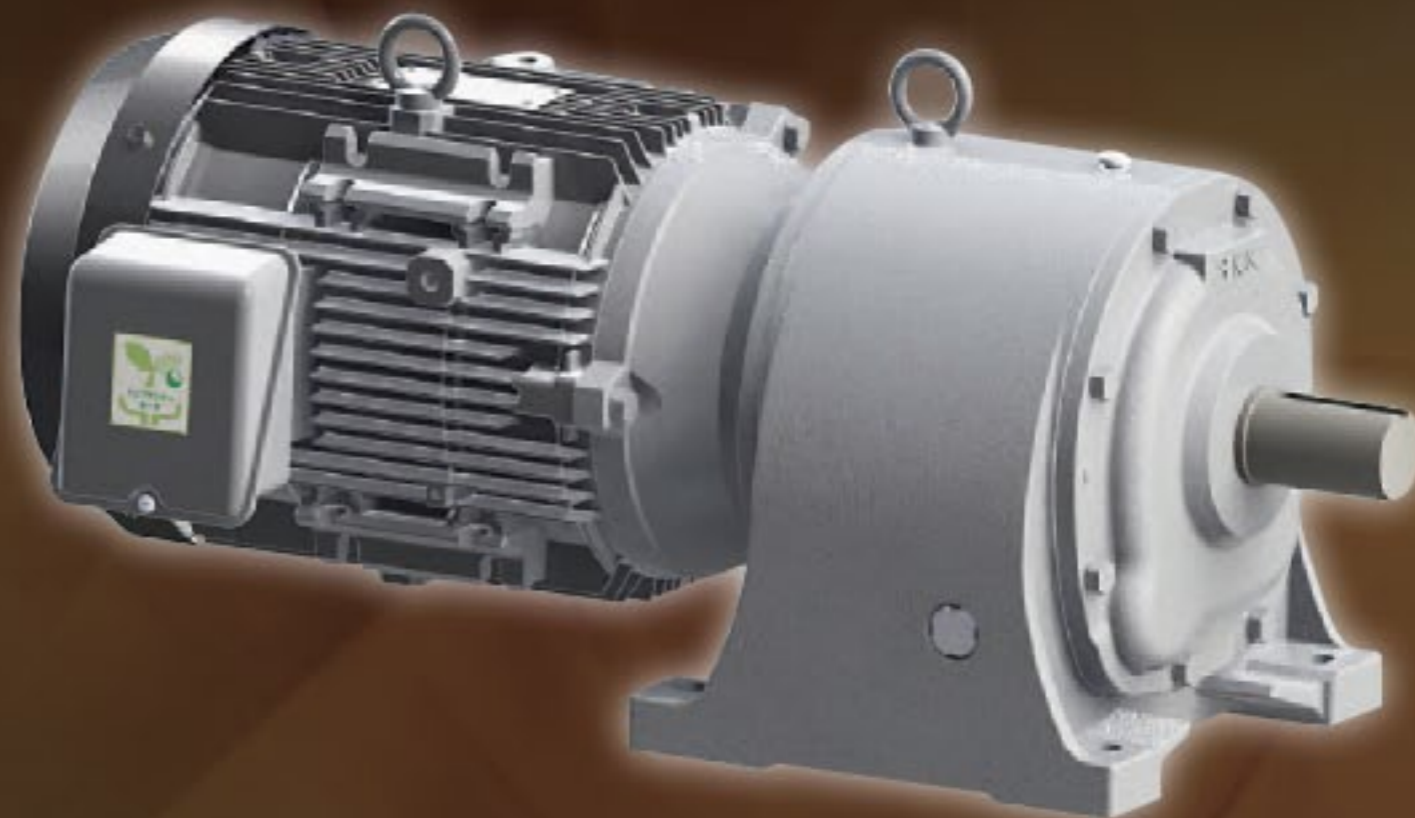
受け継ぐギヤモーターの誕生です。

東芝
ギヤモーターの歴史を

INDEX

PGシリーズ	SFシリーズ
機種データ.....03	機種データ.....15
標準形	外形寸法.....21
減速機定格表.....05	選定手順.....23
寸法表.....07	ご注文に際して.....28
強化形	
減速機定格表.....08	
寸法表.....09	
モータマウントタイプ	
寸法表.....10	
フランジ形	
減速機定格表.....11	
寸法表.....12	
ブレーキ付	
寸法表.....13	
ブレーキ仕様、電源との接続.....14	

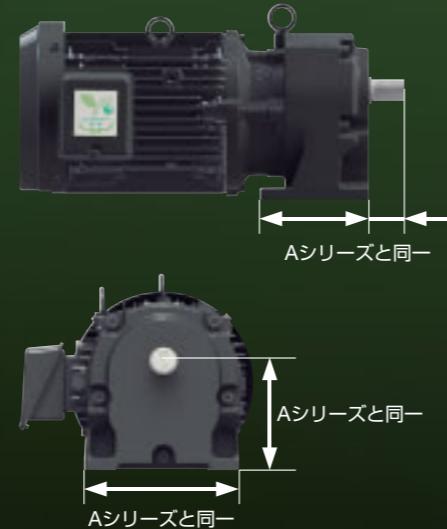
中負荷用途向け
TOSHIBA Gear-motor
SF series





一般産業用途向け TOSHIBA Gear-motor PGseries

4P-0.4kW~7.5kW
1/5~1/200



トッランナー基準対応

プレミアムゴールドモートルを搭載しているため、トッランナー基準をクリアしています。
(0.4kWを除く)



取付互換性

従来のAシリーズと取付寸法を同一としているため、置換が簡単です。(モータ側の寸法は、高効率化に伴い寸法が異なります。)

性能

許容オーバーハングロードも従来のAシリーズと同一のため、置換が簡単です。

インバータ駆動

0.75kW以上の機種は、インバータによる1:10 (50Hz基底:5~50Hz、60Hz基底:6~60Hz)の100%定トルク運転が可能です。

トリプルリップオイルシールを新規採用

モータ軸及び出力軸にトリプルリップオイルシールを採用したため、従来のAシリーズに比べ密封能力の信頼性が向上しました。

項目	仕様	
電源	三相 200V-50Hz、200/220V-60Hz	
モータ	準拠規格	JIS、JEC、JEM
	極数	4極
	使用	連続(S1)
	外被構造	全閉外扇形
	保護方式	IP44
	耐熱クラス	0.4kW:120(E) 0.75~7.5kW:155(F)
	始動方式	直入始動 (5.5~7.5kWはスターデルタ始動も可能)
	端子箱位置	出力軸側より見て左側
	口出し方式	0.4~3.7kW:ねじ止端子台接続方式(3本端子) 5.5~7.5kW:スタッド端子台接続方式(6本端子)
	減速機	減速方法
潤滑方式		グリース潤滑 (パイロノックユニバーサル000出荷時充填済)
周囲条件	温度	-15~40℃
	湿度	100%以下(結露無きこと)
	標高	1000m以下
	設置場所	屋内
	雰囲気	腐食性ガス、爆発性ガス、蒸気がないこと
塗色	深緑色(JIS表示記号3.74BG3.04/1.25近似色)	
動力伝達方式	直結、チェーン及びベルト掛け	
取付方式	脚取付	
取付角度	軸水平、軸下、軸上*	

※(1)0.75kW、1.5kWの減速機枠番号PGC以下の軸上対応はしていません。
(2)屋外で使用される場合は、ご注文対応となります。
弊社お問合せ窓口までお問い合わせ下さい。
(3)軸端キーは付属いたしません。

ラインナップ

公称減速比	出力 (kW)						
	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5
1/5	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/10	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/15	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/20	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/25	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/30	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/45	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/50	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/60	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	●■
1/75	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	—
1/100	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●■	—
1/130	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	—	—
1/150	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	—	—
1/200	●◆△■	●◆△■	●◆△■	●◆△■	—	—	—

●:見込生産機種 ●:注文対応機種 ◻:中衝撃負荷用(強化形)対応可能機種 —:製作範囲外
◆:マウントタイプ対応可能機種 △:フランジ取付対応可能機種 ■:プレーキ付対応可能機種

(注) (1)●機種、●機種は屋外形、400V級の注文対応が可能です。
(2)3.7kW 1/45~1/150、5.5kW、7.5kWの全機種は標準で中衝撃負荷用(強化形)となります。

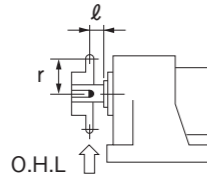
モータ定格表

出力 (kW)	モータ形式	枠番号	耐熱クラス	定格電流 (A)			定格回転速度 (min-1)			エネルギー消費効率 (%)			効率レベル (IEコード)			
				200V 50Hz	200V 60Hz	220V 60Hz	200V 50Hz	200V 60Hz	220V 60Hz	200V 50Hz	200V 60Hz	220V 60Hz	200V 50Hz	200V 60Hz	220V 60Hz	
0.4	IK	FCKLK8	71M	120(E)	2.2	2.0	2.0	1400	1680	1710	72.7	75.6	75.5	—	—	—
0.75	IKH3	FCKLK21E	80M	155(F)	3.8	3.4	3.4	1440	1730	1745	83.4	85.5	85.6	IE3	IE3	IE3
1.5		90L	6.8		6.4	6.0	1445	1740	1750	86.0	86.6	87.8	IE3	IE3	IE3	
2.2		100L	10.6		9.4	9.2	1460	1755	1765	88.6	89.7	89.9	IE3	IE3	IE3	
3.7		FCKLA21E	112M		15.6	14.6	13.8	1460	1755	1765	89.4	89.6	90.5	IE3	IE3	IE3
5.5	IKKH3	132S	132M	155(F)	23.4	21.4	20.6	1465	1760	1765	90.8	91.7	92.0	IE3	IE3	IE3
7.5					30.8	28.6	27.4	1460	1755	1765	91.2	91.7	92.4	IE3	IE3	IE3

(注) (1)0.4kW はトッランナー規制対象外のため、標準効率となります。

選定手順 PG シリーズ

PGシリーズの選定は、以下の手順に従って行なって下さい。始動頻度が多い場合は、注意が必要となります。
 (注) 連続仕様のため、始動頻度や始動総回数を保証するものではありません。

手順及び計算式	選定例
<p>1 減速比の決定</p> <p>出力軸回転速度が得られる減速比を表1から選定を行う。</p>	<p>[例]</p> <p>用途:軽衝撃のコンベア 電源:3相 200V 50Hz 出力軸回転速度:25r/min 負荷トルク:200N・m 運転時間:7h/日</p> <p>① 50Hz,25r/min→表1より、減速比=1/60 ② 軽衝撃のコンベア→表2より、Sf=1.25 ∴伝達トルク $T=T1 \times Sf=200N \cdot m \times 1.25=250N \cdot m$</p> <p>③ 機種0.4kW 1/60のとき、P05の減速機定格表より、 許容トルク=134N・m < 伝達トルク250N・m.....NG</p> <p>機種0.75kW 1/60のとき、P05の減速機定格表より 許容トルク=276N・m ≥ 伝達トルク250N・m.....OK</p> <p>↓ ∴機種0.75kW 1/60を選定</p>
<p>2 伝達トルクの算出</p> <p>伝達トルク $T=T1 \times Sf$ T1:負荷トルク Sf:サービスファクター (表2参照)</p>	
<p>3 出力の決定</p> <p>P05～06、08、11の減速機定格表より、所定の減速比のもとで、 出力軸許容トルク ≥ 伝達トルク</p> <p>となるモータ出力を選定。</p>	
<p>4 O.H.L.の確認</p> <p>O.H.L.=出力軸に作用するラジアル荷重</p> $O.H.L. = \frac{T}{r} \times Ef \times Lf$ <p>※OHL:オーバーハングロード</p> <p>T[N・m]:伝達トルク r[m]:スプロケット、プーリー等のピッチ円半径 Ef:エレメンタファクタ (表3参照) Lf:レングスファクタ (表4参照)</p> <p>※但し、カップリングで被を直結のときは、O.H.L.=0です。</p>  <p>許容OHL (減速機定格表に記載) ≥ OHL</p> <p>になることを確認。もし満足しないときはO.H.L.値を下げるか、または大きな出力を選定し再確認。 ※注意:出力軸のスラスト力がO.H.L.の10%を超える場合は弊社へお問い合わせ下さい。</p>	<p>[例]</p> <p>ギヤモータ:出力0.75kW、減速比1/60 伝達トルク:T=250N・m 連結方法:Vベルト、プーリー:半径 0.080m 荷重位置:ℓ/Q=0.75</p> <p>連結方法:Vベルト→表3より、Ef=1.5 ℓ/Q=0.75→表4より、Lf=1.25</p> <p>∴O.H.L. = $\frac{250N \cdot m}{0.080m} \times 1.5 \times 1.25=5860N$</p> <p>機種0.75kW 1/60→P05の減速機定格表より 許容O.H.L.=5100N < O.H.L. 5860N NG</p> <p>選定① O.H.L.を下げるために、 プーリーの半径を0.100mに変更 r=0.100m 荷重位置をℓ/Q=0.5に変更 Lf=1</p> <p>∴O.H.L. = $\frac{250N \cdot m}{0.100m} \times 1.5 \times 1=3750N$</p> <p>許容O.H.L.=5100N ≥ O.H.L. 3750N..... OK</p> <p>選定② 対応①ができない場合、出力を1.5kWに変更する必要があります。 許容O.H.L.=7350N ≥ OHL 3750N..... OK</p>
<p>5 始動総回数の確認</p> $R = \frac{J_L}{J_M} \left(= \frac{GD^2_L}{GD^2_M} \right)$ <p>R:慣性モーメント比 (=GD²比) J_L[kg・m²]:モータ軸換算の負荷慣性モーメント J_M[kg・m²]:出力軸換算の負荷慣性モーメント GD²_L[kgf・m]:モータ軸換算の負荷GD² GD²_M[kgf・m]:ギヤモータのGD² (表5参照) ※GD²=4J</p> <p>次項のグラフ1より、Rに対応する許容始動総回数を求め、</p> <p>許容始動総回数 ≥ 想定する始動総回数</p> <p>になることを確認。満足しないときはR値を下げるか、または大きな出力を選定し再確認。</p>	<p>[例]</p> <p>ギヤモータ:出力0.75kW、減速比1/60 負荷慣性モーメント:J_L=6.0kg・m² 伝達トルク:T=250N・m、使用電源:50Hz 連結方法:Vベルト 始動総回数:始動2万回、停止2万回</p> <p>始動総回数=2万回 (ブレーキ無のため、停止回数は含んでいません) $J_L=6.0kg \cdot m^2 \times (1/60)^2=1.67 \times 10^{-3}kg \cdot m^2$</p> <p>∴R = $\frac{J_L}{J_M} = \frac{1.67 \times 10^{-3}kg \cdot m^2}{0.00415kg \cdot m^2} \div 0.4$</p> <p>$\frac{\text{伝達トルク}}{\text{出力軸許容トルク}} = \frac{250}{276} \div 91\%$</p> <p>グラフ1より、R=0.4、伝達トルク51~100%、ベルト駆動を見ると、 許容始動総回数=3.0×10⁴回 ∴許容始動総回数 3万回 > 始動総回数 2万回</p>

選定資料 PG シリーズ

表1 出力軸回転速度

減速比	出力軸回転速度 [min ⁻¹]	
	50Hz	60Hz
1/5	300	360
1/10	150	180
1/15	100	120
1/20	75	90
1/25	60	72
1/30	50	60
1/45	33	40
1/50	30	36
1/60	25	30
1/75	20	24
1/100	15	18
1/130	11.5	13.8
1/150	10	12
1/200	7.5	9.0

表2 サービスファクター-Sf

下表のサービスファクターにより負荷トルクを算出してください。
 下表以外の負荷の場合は、P25の負荷状態によるサービスファクターを確認ください。

負荷の性質	運転時間			用途例
	3h/日以下	3~10h/日	10h/日以上	
均一負荷	1	1	1.25	均一負荷のコンベア、均一負荷の攪拌機扇風機、ターボ形の「送風機・圧縮機・ポンプ」
軽い衝撃	1	1.25	1.5	軽衝撃のコンベア、負荷にムラのある攪拌機、二葉形の「送風機・圧縮機・ポンプ」、スクリー式フィーダー、切削工具の回転駆動、巻上げ機
激しい衝撃	1.5	1.75	2	往復動のコンベア、往復動する攪拌機、レシプロ式の「圧縮機・ポンプ」往復動するフィーダー、ネジ立て盤、プレス機、粉砕機

表3 連結方法とEf

連結方法	Ef
単列チェーン	1
タイミングベルト	1
複列チェーン	1.25
ギヤ	1.25
Vベルト	1.5
平ベルト	2.5

表4 荷重位置とLf

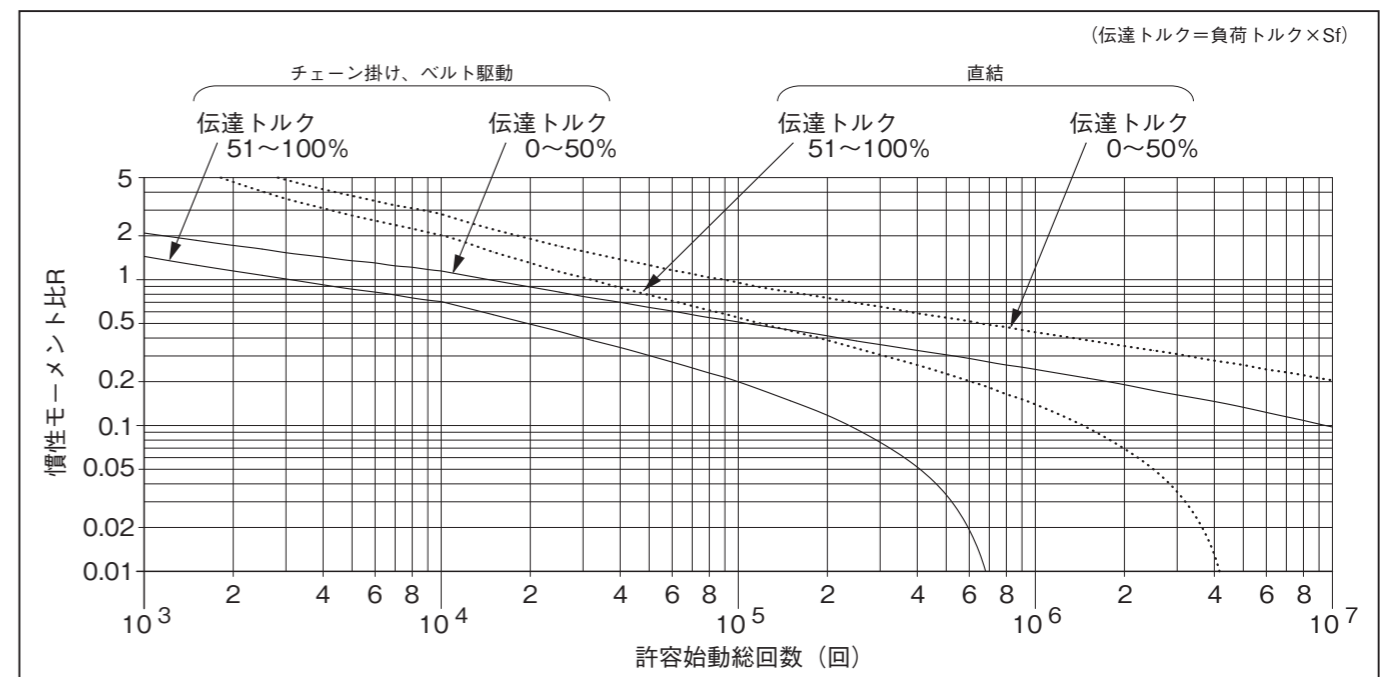
ℓ/Q	Lf
0	0.8
0.25	0.9
0.5	1
0.75	1.25
1	1.5

(注) (1) Qは、軸端から段付部までの寸法です。寸法表より確認ください。

表5 ギヤモータの慣性モーメントJ_M

出力(kW)	J(kgm ²)
0.4	0.00120
0.75	0.00415
1.5	0.00593
2.2	0.0100
3.7	0.0210
5.5	0.0403
7.5	0.0518

グラフ1 慣性モーメント比R と許容始動総回数



選定手順 SF シリーズ

SFシリーズは、均一荷重・1日10時間の運転条件の下に設計されています。
1日10時間を越えて運転される場合や、使用機械の負荷条件によっては、次の負荷係数を見込む必要があります。

表1 出力軸回転速度

減速比	出力軸回転速度[min^{-1}]			
	4極		6極	
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
1/15	100	120	66.7	80
1/20	75	90	50	60
1/30	50	60	33.3	40
1/40	37.5	45	25	30
1/45	33.3	40	22.2	26.7
1/60	25	30	16.7	20
1/70	21.4	25.7	14.3	17.1
1/90	16.7	20	11.1	13.3
1/100	15	18	10	12
1/130	11.5	13.8	7.7	9.2
1/160	9.4	11.3	6.3	7.5

表2 サービスファクター-sf

下表のサービスファクターにより負荷トルクを算出してください。
下表以外の負荷の場合は、P25の負荷状態によるサービスファクターを確認ください。

負荷の性質	運転時間		主な使用機械例
	10h/日以下	10~24h/日	
均一荷重	1.00	1.25	コンベア(均一荷重)、ポンプ(遠心式)、食品機械(精米機、缶詰機)、エレベータ(均一荷重)、プラスチック押出機、アジテータ(液体)、バースクリーン
軽い衝撃	1.25	1.50	コンベア(変動送り、重荷重)、食品機械(ピートスライス、ダウミキサ、肉挽機)、エレベータ(重荷重)、アジテータ(液固体混合、密度変化)、フィーダ(ベルト、エプロン、スクリュ)、シクナ、フロキュレータ、一般工作機械(主軸場)
激しい衝撃	1.75	2.00	パンチングプレス、タッピングマシン、粉碎機械(クラッシャミル)、ホイスト(重荷重)、ドラムパーカ、ログホール、カッタ、プレータ

(注) (1) 実際に御客様でご使用になる機械装置と表2の機械名称と機械性質が異なる場合がありますので、選定時の参考値としてご使用ください。

表3 Cf 駆動方法による係数

駆動方法	Cf
単列チェーン	1.00
複列チェーン	1.25
ギヤー	1.25
Vベルト	1.50

表4 Lf 荷重位置による係数

荷重位置	Lf
0.3Lo	1.10
0.5Lo	1.00
0.7Lo	0.83
0.9Lo	0.70

Lf 荷重位置の考え方

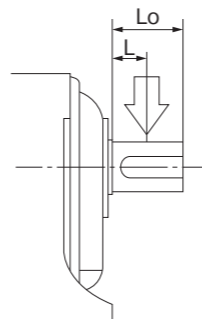


表5 ギヤモータの慣性モーメントJ_M

4極		6極	
出力(kW)	J(kg m^2)	出力(kW)	J(kg m^2)
3.7	0.0210	2.2	0.0292
5.5	0.0403	3.7	0.0480
7.5	0.0518	5.5	0.0672
11	0.0875	7.5	0.102
15	0.113	11	0.141
22	0.224	15	0.249
30	0.298	22	0.394
37	0.515	30	0.788
45	0.620	37	0.817
55	0.880	45	1.166

選定手順 SF シリーズ

始動・停止頻度による選定

始動・停止を頻繁に行う運転をされる場合、始動・停止頻度と減速機の負荷係数を目安に選定してください。
相手機械の使用条件より、表6の負荷係数を算出してください。

表6 始動・停止頻度とギヤモータの負荷係数

始動・停止頻度 (回/時間)	~10時間/日			24時間/日		
	I	II	III	I	II	III
1以下	1.00	1.15	1.50	1.20	1.30	1.65
~3以下	1.00	1.25	1.60	1.20	1.40	1.70
~10以下	1.00	1.35	1.70	1.20	1.50	1.80
~60以下	1.00	1.45	1.75	1.25	1.65	2.00

$$\text{慣性モーメント (GD}^2\text{) 比} = \frac{\text{モータ軸換算負荷の慣性モーメント (モータ軸換算負荷のGD}^2\text{)}}{\text{モータの慣性モーメント (モータのGD}^2\text{)}}$$

- 負荷係数の区分
- I:許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 0.3
 - II:許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 3
 - III:許容できる慣性モーメント (GD²) 比 ≤ 10

※GD² = 4J

- (注) (1) 始動・停止回数にはブレーキ、クラッチ等による制動回数を含めてください。
(2) 下記の場合には、別途検討が必要になりますので弊社までご連絡ください。
・トルク、ラジアル負荷がかかった状態で始動される場合
・始動停止頻度と慣性モーメント(GD2)比が、上記の値を超える場合
・急加減速を伴う運転をされる場合
(3) プレミアム効率モータは始動トルク、最大トルクが大きいため、選定手順や始動・停止頻度と減速機の負荷係数が従来のモータと異なります。

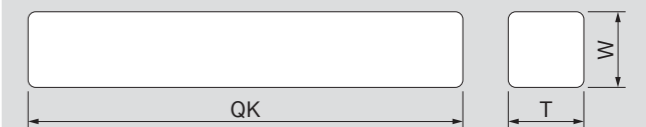
ご注文に際して

注文の際は次の事項をご確認ください。

- (1) ご希望ギヤモータの種類
 - a. ギヤモータシリーズ
PG・SF
 - b. 減速比
 - c. モータ極数・出力
 - d. 電圧-周波数
- (2) 相手機械の種類
- (3) ご指定条件(始動頻度、出力軸トルク、O.H.L)
- (4) 設置場所の状況

特に標準仕様からはずれるものについては、
詳細をご確認ください。

出力軸付属キー寸法



PGシリーズ

減速機枠番号	寸法[mm]		
	QK	W	T
A	20	6	6
B	28	6	6
C	27	8	7
D	48	10	8
E	48	10	8
F	71	12	8
G	70	14	9
H	69	16	10
K	91	18	11

(注) (1) JIS B 1301の平行キーおよびキー溝によります。

注油と交換

潤滑（グリース） - PGシリーズ

PGシリーズは、グリース潤滑を採用しています。出荷時には既にグリースが封入されておりますが、運転開始後20,000時間を目安に新しいグリースと交換する必要があります。高温場所、連続使用など使用条件が厳しい場合は、15,000時間を目安とします。

尚、グリース交換が必要な場合は、弊社の支社・支店または各サービス部門に相談ください。

潤滑（オイル） - SFシリーズ

SFシリーズは、オイル潤滑を採用しております。

●潤滑油推奨銘柄表

油の種類 各社銘柄	JIS K 2219ギヤ油 工業用2種				
	ISOVG68	ISOVG100	ISOVG150	ISOVG220	ISOVG320
	-15℃~10℃		4℃~40℃		30℃~60℃
出光興産	ダフニースーパー ギヤオイル68	ダフニースーパー ギヤオイル100	ダフニースーパー ギヤオイル150	ダフニースーパー ギヤオイル220	ダフニースーパー ギヤオイル320
エクソンモービル	スバルタン EP68	スバルタン EP100	スバルタン EP150	スバルタン EP220	スバルタン EP320
	モービルギヤ626	モービルギヤ627	モービルギヤ629	モービルギヤ630	モービルギヤ632
昭和シェル石油	オマラオイル68	オマラオイル100	オマラオイル150	オマラオイル220	オマラオイル320
JXエネルギー	ボンノックTS68	ボンノックTS100	ボンノックTS150	ボンノックTS220	ボンノックTS320
	レダクタス68	レダクタス100	レダクタス150	レダクタス220	レダクタス320
コスモ石油	コスモギヤSE68	コスモギヤSE100	コスモギヤSE150	コスモギヤSE220	コスモギヤSE320

(注) -10℃~-30℃の範囲でご使用の場合は次の銘柄を推奨します。
 エクソンモービル: モービルDTE15
 昭和シェル石油: シェルテラスオイルT37

●油量

減速機部は輸送の都合で潤滑油を全部抜いておりますので、運転前に油面計の中央まで入れてください。

ご使用後は定期的に油面を見て、不足分を補給します。なお、給油は必ず運転停止時に行ってください。

●油の交換

使用開始後1ヶ月目に1回、その後は2,500時間ごとに油を抜いてフラッシングオイルなどで洗浄のうえ、新しい油と交換してください。

●オイルシールについて

ギヤモータ及び減速機には、オイルシールを使用しています。

オイルシールには寿命があり、オイルシールの磨耗が油漏れの原因となります。

ご使用の条件や環境によってオイルシールの寿命は大きく変わりますので、定期的に点検を行ない、異常がある場合は早めの交換をお奨めします。通常の使用条件の場合、均一荷重、1日8時間運転、常温下では1~2年を目安に交換が必要です。また、高温化での運転や連続運転などの厳しい条件で使用される場合は、1年を目安に交換する必要があります。

スライドレール (SFシリーズ用)

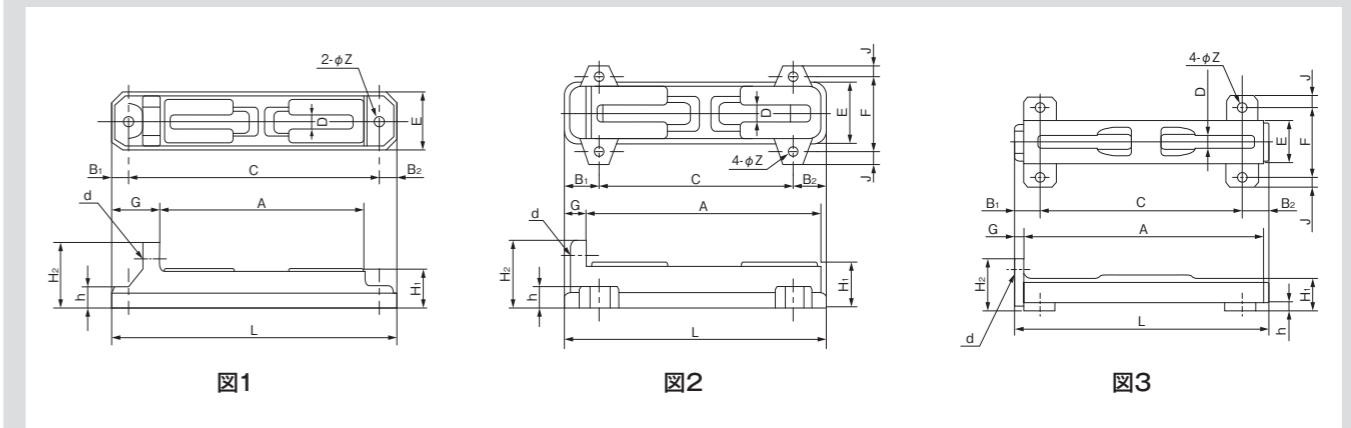
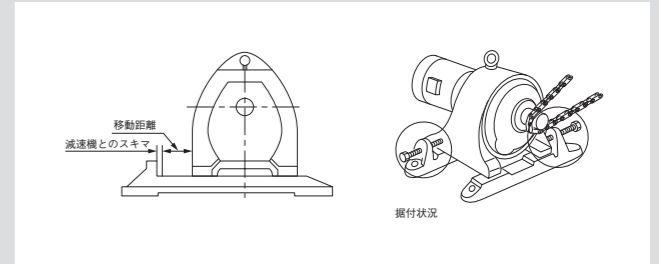
スライドレールはギヤモータを出力軸と直角の方向に移動させる場合に利用ください。

1台について2本のスライドレールが必要です。

スライドレールを選定される場合は下表に示すように減速機の枠番号によって選んでください。

スライドレールの取付けについて

Vベルトおよびチェーン駆動でスライドレールをご使用になる場合は、右図に示すように押しボルトは外力と反対方向に前後交互に取り付けてください。



減速機 枠番号	スライド レール番号	図	寸法 (mm)													押しボルト d	移動距離 (mm)	概略質量 (kg) 1台分(2本)		
			L	A	B1	B2	C	D	E	F	G	H1	H2	h	J				Z	
SFJ45	SFR50	1	520	370	30	30	460	20	80	-	90	60	98	30	-	19	M16	60	20	
SFJ50																				
SFJ56	SFR63	2	635	460	35	35	565	24	90	-	105	70	115	35	-	24	M20	70	36	
SFJ63																				
SFJ71			SFR71	580	520	80	80	420	30	105	135	50	80	130	35	25	19	M20	80	42
SFJ80			SFR80	640	580	80	80	480	36	120	150	50	85	135	35	25	19	M20	90	52
SFJ90			SFR90	710	640	90	90	530	36	120	160	60	90	150	45	30	24	M24	100	63
SFJ100			SFR100	770	700	90	90	590	36	140	180	60	90	150	45	30	24	M24	100	81
SFJ112			SFR112	840	770	100	100	640	43	140	190	60	100	160	50	35	28	M24	120	92
SFJ125	SFR125	890	820	100	100	690	43	160	210	60	100	160	50	35	28	M24	120	114		
SFJ135	SFR135	3	972	906	96	106	770	43	132	220	50	100	160	22	30	28	M24	120	95	
SFJ150	SFR150		1139	1066	110	119	910	50	148	240	54	120	190	25	40	35	M30	150	140	
SFJ160																				

(注) (1) 質量は1台分(2本)を示します。
 (2) ご注文により製作いたします。

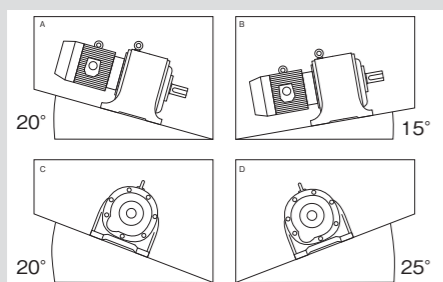
ご使用時の注意点

ギヤモータ・減速機を据付けの場合、次にあげる条件のもとで行ってください。

■据付け時の注意

- 据付台は、振動が生じないよう十分強固にして、脚取付面が水平になるように据付けてください。
- 水平の据付台に確実に取付けてください
もし、傾斜してお使いになる場合、下図の据付角度を超えないようにしてください。
- 取付けの際、片締めなど無理が絶対にかからないように注意してください。
- 直結駆動以外の場合、または頻繁な始動、停止を行う場合は、脚部に2カ所以上のストッパーを使用されることをおすすめします。
- 下記の許容傾斜角度に於ける油量は、水平取付時の規定油量を給油してください。
(傾斜取付での油面確認は、油面計基準になりませんのでご注意ください。)

SFシリーズ許容据付角度



※SFシリーズはオイル潤滑のため、傾斜して据え付けると、歯車の潤滑が悪くなり、油漏れなどの事故の原因となります。
基本的には、水平に据付けてください。やむを得ず傾斜して据付ける場合は、左記に示す許容据付角度以内にしてください。

以上のような条件で、据付けが確実でないときは始動、停止時の衝撃が振動の原因になりますので、ご注意ください。

■運転

- ギヤードモータを逆転させる場合には、一旦停止させた後に逆転させるようにしてください。
(停止しないうちに逆転させると大きな衝撃トルクがかかり、相手機械やギヤモータに悪影響を及ぼします。)
- 停電のときは、必ず電源スイッチを切ってください。

■連結

(1) 直結方式

フレキシブルカップリングなどをご使用のうえ、両側の軸心が同心になるように心出しをしてください。

(2) ベルトチェーン掛けおよび歯車駆動方式

○荷重の作用点について

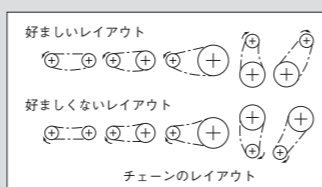
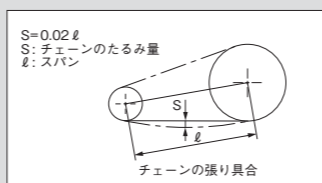
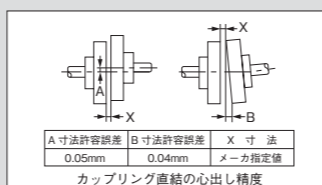
出力の先端側に荷重が作用しますと出力軸に無理な荷重がかかり軸受の破損、軸折れなどの原因となりますので、スプロケット、ギヤなどは軸の根元まで完全に入れてください。

○チェーンの張りについて

チェーン駆動の場合は、チェーンのたるみに注意してください、チェーンのたるみ量が大きいと始動時、負荷変動時に大きな衝撃力が発生し、ギヤモータ、減速機や相手機械に悪影響を及ぼします。通常はスパンの2%前後としてください。

○チェーン駆動のレイアウト

チェーン駆動の場合のレイアウトは、極力軸位置を水平とし、かつ上部が緊張側となるよう設定ください。
やむをえず垂直電動となる場合は、回転方向にかかわらず、大スプロケット(負荷側)を下側にレイアウトしてください。



インバータによる運転

許容最高運転周波数

60Hzを超える高速範囲で運転する場合は、振動の増加などによりギヤ寿命や軸受寿命が低下するため、最高速度には限界があります。運転中の振動や騒音が急激に増加しない範囲でご使用ください。また、カップリング・ベルト・チェーン・ギヤなどの動力伝達機構においては騒音や強度、寿命等が問題になる場合がありますので各メーカーへ個別にお問合せください。

始動特性について

インバータ駆動時はインバータの過負荷電流定格による制約があり、商用電源駆動時の始動特性と異なります。インバータ駆動時の始動トルクは商用電源駆動時より小さな値となりますが、電圧周波数(V/f)パターンのトルクブースト量の調整やベクトル制御の採用で始動トルクを改善することができます。(モータ特性や駆動インバータの制御内容により異なりますが、最大200%) さらに大きな始動トルクを必要とする場合は、インバータ容量の選定をアップするとともにモータ容量もアップすることを検討してください。

騒音について

- インバータで運転すると、商用電源で運転した場合に比べて多少磁気騒音が大きくなります。またモータの定格回転以上で運転すると風音が大きくなります。特に騒音が問題となるような場所で使用する場合はご注意ください。
- 騒音を低減したい場合は、インバータとモータ間へ騒音低減リアクトル(オプション)の挿入、静音インバータの使用などの方法がありますので、ご相談ください。

振動について

- 東芝汎用インバータは正弦波PWM制御のため、振動は少なくなっていますが、商用電源での運転とくらべて軽負荷時の振動が若干大きくなります。
- 振動はモータを機械の基礎にしっかりとセットし、負荷運転を行えば、ほとんど問題はなくなりますが、基礎が弱く、軽負荷の場合や、機械系との共振により、振動が大きくなる場合があります。このような場合はベースやカップリングの変更など、機械側での対策も必要です。

高効率モータ採用時のご注意

高効率モータは、銅損低減のために(一次、二次)抵抗を低くしている場合があります。始動電流が標準モータに対し高くなり、ブレーカなどの変更が必要になる場合があります。また、慣性モーメントが大きい場合や始動頻度が高い場合は、減速機の枠番検討が必要になる場合がありますのでご注意ください。

低速運転(SFシリーズ)

SFシリーズは、オイルによる飛沫潤滑のため、低速は電動機側出力軸回転速度30min⁻¹まで使用可能です。インバータ駆動時の許容トルク特性については、弊社までお問合せください。

モータ端サージ電圧対策

400V級の高効率モータを、超高速スイッチングデバイス(IGBTなど)使用の電圧形PWM方式インバータで運転するシステムでは、電源電圧、モータケーブル長さ・布設方法・種別などに依存するサージ電圧がモータ巻線の絶縁劣化を引き起こす場合があります。

ご使用になるモータに合わせて、以下の対策を行ってください。

- 通常絶縁のモータを使用する場合
インバータ出力端に交流リアクトル、サージ抑制フィルタなどのサージ電圧対策機器を設置して、モータ端子でのサージ電圧が850V以下となるようにしてください。
- 絶縁強化をしたモータを使用する場合
絶縁強化したモータの端子電圧ピーク値は線間1250Vです。インバータの入力電圧の変動等により、この電圧を越えるサージ電圧が発生する場合には、インバータ出力端に上記と同様の対策機器を併設して、サージ電圧を抑制してください。

入力電圧について

ベクトル制御等で入力電圧が大きく下がる場合には、専用モータの使用をご検討ください。インバータの入力電圧の変動等により、この電圧を越えるサージ電圧が発生する場合には、インバータ出力端に上記と同様の対策機器を併設して、サージ電圧を抑制してください。

軸受電食について

インバータにて駆動する場合、軸受封入グリースの状態、配線方法及び運転条件等によっては、稀に電食が発生することがあります。

対策が必要な場合はご相談ください。

(ご指定がない場合はモータ部に電食対策を施してありません。)

(参考資料:日本電機工業会技術資料 JEM-TR16一般用低圧三相かご形誘導電動機をインバータ駆動する場合の適用指針に関する補足説明資料)

MEMO

MEMO

⚠ 安全に関するご注意

- ▼東芝モートルを、人の生命や公共の機能に重大な影響を及ぼすような設備（原子力制御、交通機器、運搬機器、生命維持装置、化学プラント、各種安全装置など）に使用する場合は、弊社（当社）のお問い合わせ窓口とご相談ください。
- ▼東芝モートルは厳重な品質管理のもとに製造しておりますが、使用環境・使用条件により故障することがあります。東芝モートルの故障により重大な事故または損失の発生が予測される設備への使用に際しては、設計上の配慮（二重化、フェイルセーフ等）をお願いします。
- ▼ご使用環境については、カタログ・取扱説明書に記載されている範囲内とします。範囲外では使用しないでください。けが・火災など事故の原因となります。
- ▼ご使用前に「取扱説明書」の安全上のご注意と取扱内容をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ▼人員輸送装置や昇降装置に使用される場合は、装置側に安全のための保護装置を設けてください。
- ▼クリーンルームや食品機械等にお使いになるときは事前に弊社へお知らせください。特別な処置を施していない標準品をそのままお使いになると、軸受ブラケットと固定枠のインロー部や軸貫通部からグリースや油分が滲み出ることがあります。油分を嫌う場所にお使いになるときは特別な配慮が必要です。

【製造・販売元】

東芝産業機器システム株式会社

ホームページ <http://www.toshiba-tips.co.jp>

お問い合わせ営業窓口

本社	TEL:044-520-0390	〒212-0013	神奈川県川崎市幸区堀川町580(ソリッドスクエア西館 9階)
関東支社	TEL:044-520-0870	〒212-0013	神奈川県川崎市幸区堀川町580(ソリッドスクエア西館 9階)
西東京支店	TEL:042-522-1661	〒190-0012	東京都立川市曙町1-36-3(東芝立川ビル 2階)
北海道支店	TEL:011-624-1188	〒063-0814	北海道札幌市西区琴似四条2-1-2(コルテナII)
東北支店	TEL:022-296-2266	〒984-0051	宮城県仙台市若林区新寺1-4-5(ノースピア 3階)
福島営業所	TEL:024-938-2662	〒963-8025	福島県郡山市桑野4-2-2(NREG東芝不動産 郡山支社)
関信越支社	TEL:048-631-1048	〒330-0835	埼玉県さいたま市大宮区北袋町1-318(みづほビル 2階)
群馬支店	TEL:027-265-6000	〒371-0814	群馬県前橋市宮地町6-5
埼玉支店	TEL:048-631-1048	〒330-0835	埼玉県さいたま市大宮区北袋町1-318(みづほビル 2階)
栃木支店	TEL:028-634-0261	〒321-0925	栃木県宇都宮市東築瀬1-26-14
新潟支店	TEL:025-241-1418	〒950-0088	新潟県新潟市中央区万代3-1-1(メディアシップビル 10階)
信州支店	TEL:0263-35-5021	〒390-0815	長野県松本市深志2-5-26(松本第一ビル 4階)
中部支社	TEL:052-551-1835	〒450-0003	愛知県名古屋市中村区名駅南3-7-20(第二ワカサビル)
静岡支店	TEL:0559-22-8926	〒410-0055	静岡県沼津市高島本町16-16(三井生命沼津高島本町ビル 3階)
静岡支店 (浜松営業担当)	TEL:053-458-1048	〒430-0929	静岡県浜松市中区中央3-9-3(UNビル 4階)
北陸支店	TEL:076-432-7121	〒930-0008	富山県富山市神通本町1-1-19(いちご富山駅西ビル 4階)
北陸支店 (富山営業担当)	TEL:076-203-8355	〒920-0919	石川県金沢市南町5-20(中屋三井ビルディング 6階)
北陸支店 (福井営業担当)	TEL:0776-24-3330	〒910-0001	福井県福井市大願寺2-9-1(福井開発ビル 7階)
関西支社	TEL:06-6130-2285	〒530-0017	大阪府大阪市北区角田町8-1(梅田阪急ビル オフィスタワー 28階)
京都支店	TEL:075-353-6021	〒600-8421	京都府京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍町167(AYA四条烏丸ビル 8階)
姫路支店	TEL:079-226-0222	〒670-0964	兵庫県姫路市豊沢町140(新姫路ビル 7階)
中国支店	TEL:082-263-0325	〒732-0052	広島県広島市東区光町1-12-20(もみじ広島光町ビル 5階)
福山支店	TEL:084-999-5177	〒720-0811	広島県福山市紅葉町2-27(日本生命福山ビル 3階)
福山支店 (岡山営業担当)	TEL:086-231-1048	〒700-0903	岡山県岡山市北区幸町8-29(三井生命岡山ビル 12階)
四国支店	TEL:087-811-5883	〒760-0065	香川県高松市朝日町2-2-22(東芝高松ビル)
九州支社	TEL:092-735-3512	〒810-0072	福岡県福岡市中央区長浜2-4-1(東芝福岡ビル 8階)
北九州営業所	TEL:093-591-5045	〒803-8686	福岡県北九州市小倉北区下道津1-10-1(東芝北九州ビル 2階)
鹿児島営業所	TEL:099-216-2245	〒892-0838	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16-407(鹿児島県住宅供給公社ビルA棟)

サービス窓口

関東・関信越サービス担当	TEL:044-520-0819	〒212-0013	神奈川県川崎市幸区堀川町580(ソリッドスクエア西館 9階)
北海道サービス担当	TEL:011-624-1188	〒063-0814	北海道札幌市西区琴似四条2-1-2(コルテナII)
東北サービス担当	TEL:022-292-2422	〒984-0051	宮城県仙台市若林区新寺1-4-5(ノースピア 3階)
東海・北陸サービス担当	TEL:052-551-1837	〒450-0003	愛知県名古屋市中村区名駅南3-7-20(第二ワカサビル)
関西サービス担当	TEL:06-6130-2291	〒530-0017	大阪府大阪市北区角田町8-1(梅田阪急ビル オフィスタワー 28階)
中四国サービス担当	TEL:082-263-0361	〒732-0052	広島県広島市東区光町1-12-20(もみじ広島光町ビル 5階)
九州サービス担当	TEL:092-735-3522	〒810-0072	福岡県福岡市中央区長浜2-4-1(東芝福岡ビル8階)

取扱店

●本資料記載の内容は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。 ●このカタログは2016年11月発行のものです。